

# 兵庫県パース事務所

## インターンシップ報告書

経済学部 学年 二回生

氏名 角田 健

期間：平成 30 年 3 月 13 日～4 月 5 日

### ● インターンシップの研修内容

- ・日本語教室のアシスタント
- ・兵庫事務所に来る人たちとお話し
- ・ブックカバー作り
- ・季節のイベントの紹介ボード作り
- ・日本語 AT をする生徒のための学校の視察
- ・日本文化(J. LEAGUE)についてのプレゼンテーション
- ・現地の大学で日本語を学ぶ理由についての調査

### ● インターンシップに必要な英語力・スキル

高度な単語や文法ではなく、何よりも日常会話で使える英語を伝えることが大事だと実感しました。日本語で普段使うような挨拶や相槌などはもちろん、体の部位や持ち物などについても英語で伝えることができるようにしておく方が良いです。文法自体は間違っているとしてもそこまで強く指摘されることはないし、ある程度言いたいことがわかれば理解はしてもらえます。しかし、単語が出てこないと推測することは難しくなるので、日常会話だけは覚えていく方が良いです。

また、オーストラリアには移民が多くいるため、そもそも正しい文法や発音というものがないように感じられました。東南アジア系の移民の発音は聞き取りにくい場合が多く、慣れるまでに時間がかかります。移民ではないオーストラリア出身の人でも、特有の発音なのか、aを「アイ」、eを「エイ」と発音する人も多くいるので、あらかじめ理解してから行くと対応しやすいです。

パースの兵庫県事務所でインターンをする際に最も必要なスキルは「会話力」だと思います。英語が苦手でも、とにかく話すこと。よく聞き、よく話し、動作を交えつつコミュニケーションをとること。ここで求められることの一つは「文化を発信すること」なので、自分から伝える能力は必須です。

## ● インターンシップで得たこと

第一に、何事も行動しなくては始まらないということ。今回のインターンシップは、自分でも何をすれば良いかわからず、どうなるのかもわかっていない状況の中で、とりあえず行ってみよう的なものでした。慣れない環境の中での生活ということもあって、最初はそれなりに苦しむことも不安もありましたが、少しずつ慣れてきて、自分のすべきことやできることがわかるようになりました。自分で行動するようになると、自然と周りの人たちも後押ししてくれるようになり、最終的には自分のしたかったことはほとんどすることができました。不安だとしても、とにかく飛び込んでみる勇気が大事だと実感させられたインターンでした。

次に、自分が何をしたいのかという目標を作ること。将来何をしたいのか、どういった職業に就きたいのかということは、自分の中ではある程度決まっていたのですが、今回のインターンを通じて、より明確に目標を設定することができました。働くことに対する熱意や、自分の信念を後押ししてくれる経験になったと私は思います。

インターンシップでの仕事の実績としては、自分のリサーチテーマでもあった「なぜオーストラリアは、サッカーがマイナーな国なのにそこまで強いのか？」ということについて、現地で実際にプレーしたり、プロの試合を観戦したりすることで、おおよそリサーチすることができました。また、「日本のサッカーをオーストラリアで広める」ということに関しても、チャーターボックスでのプレゼンテーションを通じて魅力を紹介することができたと思います。最初は何も知らなかった人も、最後にはまた見てみたいと言ってくれたので、本当に紹介できて良かったと思いました。



そして、何よりも大事なことは、自分にとって大切な場所と友人ができたことです。

私にとっては二回目の海外でしたが、綺麗で静かな街や、豊かな自然にあふれる場所で、毎日が感動でいっぱいでした。そして、そのパースで多くの人と出会い、親しくなれたことは、私にとって本当にかげがえのない思い出となりました。遠い異国の地に友人がいて、またいつかそこに行きたいと思えることが、私にとってはとても幸せです。



## ● 印象に残ったこと

まず、日本と景色が全く違うこと。ビルが少なく、市街の中心を離れると大きな建物はほとんどありませんでした。パースはとても綺麗な街だったけれど、思っていたよ

りも田舎で静かな場所だったことに驚きました。そして、建造物だけでなく、自然の景色も全く異なっていて、晴れた日のパースの空は驚くほど青くて綺麗でした。海も透き通っていて、パースを少し離れるとサバンナが広がっています。どれも日本では見られないような景色なので、どこへ行くにも感動で溢れていました。



次に、物価がとても高いこと。ペットボトル飲料が安くても3.5ドルほどかかり、日本の二倍近くすることが印象的でした。オーストラリアのブランド商品も、日本で買う方が安く買えるほどで、あまりお土産として買うには向いていないと感じました。ごく一部の人からとは言え、差別を受けたことも悪い意味で印象に残っています。あれだけ多くの移民がいる国とは言え、やはりまだ差別主義の人がいるということは本当に残念だし、悲しいことだと思いました。

その他にも、ほとんどの人が9時までに寝ることや、ニュースの内容、ポピュラーなスポーツのことなど、オーストラリアで見ること、聞くことのすべてが本当に印象的なものでした。

- **インターンシップが今後どう活かされていくか**

今回身につけた英語力は、間違いなく今後にも活かすことができると思うし、さらに上達するためのモチベーションになります。また、仕事をする上で自分がすべきことや、大事な考え方など、これらは将来どんな企業に就職したとしても活用できると思います。私は将来、サッカーの育成に携わる仕事に就きたいと考えているので、今回オーストラリアで見たサッカー指導法の長所・短所や日本との違いは、自分の将来目指す方向性を定めるための、貴重な糧になったと確信しています。ここまで有意義な経験をする事ができたので、今後はできる限りすべての経験を活かすことができるよう努力していきます。

- **後輩たちへのメッセージ**

三週間という短い期間だけでも、全く異なる環境にこうして一人で飛び込むということは、すごく大きな経験になります。楽しいことも、苦しいことも沢山あります。でも、間違いなく、そのすべてが良い経験になります。こんな機会は滅多にないですし、思い切ってチャレンジしてみてください！